

2012年 5月9日・「京都新聞」では

マキノの真田さん

## 湖への思慕 詩集に

自費出版 エッセーも収録

高島市マキノ町中庄の湖岸に、5年前に移り住んだ主婦、真田かずこさん（60）が、詩集「奥琵琶湖の細<sup>なみ</sup>波」を自費出版した。琵琶湖の自然や景色への愛を、29編の詩と23のエッセーで表している。

「海はあるとき 波もたてず湖のようにやさしく 湖はあるとき白波をたて海のように荒れる（中略） 大古の美そのままに同じ魂を持ち合やす」（「波の関係」から）

島根県浜田市で育った真田さん。40代から暮らした田辺町（今の京田辺市）で急速に都市開発が進み、空が狭くなるのに息苦しさを感じて、毎週のように琵琶湖を巡った。

山陰地方の気候、風景に似るマキノの地を選び、「干からびた心を潤し、静めるように」移り住んだ。詩の言葉やイメージがあふれ出る琵琶湖の景色に感謝して、また詩を詠む。

「ただただ 湖を眺めて暮らすことは可能だろうか きらきら輝く<sup>みなも</sup>水面に 小魚たちが跳ねるのを」（「奥琵琶湖」から）。

ヨシ笛や、高島で詠まれた万葉歌にも関心を広げる真田さんは「詩を読んで、私と同じように奥琵琶湖を好きになってくれる人がいたらうれしい」と話す。年4回発行する個人誌「トンビ」の随筆も収録。

と紹介されています。